

仕事も趣味も充実した暮らしを続けたい長州源一郎さん(40代後半・男性)の支援

【事例概要と今回検討する場面設定】

—以前(2年前まで)—

5年ほど前より、A相談支援センターでは、主に就労(再就職)にむけての関わりがあった。

その中で、2年前に就職。安定して働き続けられるようになった。その頃、本人より「一度卒業したい。」との希望が表明されたことや、家族からは「あまり家の中に立ち込んでほしくない」様子が強く窺えたことから、担当者は就労以外の面が気になりつつも「何かあったらまた遠慮なく相談に来て」と一旦支援を終結していた。

—再開(2ヶ月前)—

2ヶ月前、本人が父母に連れられる格好で来所。

父母は困った様子で「もう息子と一緒に暮らせない。自分たちは半年後を目途に田舎に帰る。息子(源一郎)は施設に入りたい。」「最近、お金の無心がひどい。拒否すると、執拗に要求したり、物に当たったりするようになってきた。自分たちに手を挙げることはないが、体が大きいので怖い。」と訴える。

本人は言葉を発せず、うつむいたままである。

以前の担当者は退職しており、今回話を聞いた相談員は、まだ状況も経緯も詳細をつかめていない。

相談員は、「また一緒に考えていきましょう。何度かお会いして話をお聞きしたい。」と提案し、同意を得た。

—再開後—

相談員は、週に1~2回程度、仕事帰りにセンターに寄ってもらったり、自宅の最寄り駅近くのファーストフード店で待ち合わせたりしながら本人との話を重ねた。また両親や姉にも、自宅を訪問するなどしながら話を聞いていった。

—再開から2ヶ月後(今回の演習の現時点)—

情報も少しずつ集まり、本人や家族の意向もわかってきた。

本人は、「お金使うなと言われる。けど、そんなに使ってるのかな。」「足りなくなったらもらってるだけなんです。今まで通り。」「Suicaだと大丈夫です。けど、使えないところもあるんです。おもちゃ屋とか定食屋とか。」「なんでくれる時とくれない時があるのかな。変だよ。僕のお金なのに。」「お父さんお母さん沖繩に帰りたいみたい。ほんとは一緒に暮らしたいけど……。ついてはいけません。50歳までに独立しなくちゃと思ってた。」「でもまだよくわかんないです。ひとり暮らし大変ですよ。自信ないな……。」

父母の発言の真意は、「沖繩に年の離れた兄弟が暮らしているが、だいぶ弱ってきた。『助けてほしい』と言われ、なんとかしてやりたいと思っている。自分たちも定年後は生まれ育った故郷に帰りたい気持ちがずっとあった。帰ればなんとかなる土地だ。決意は固い。娘(源一郎の姉)も理解してくれている。しかし、源一郎が心配。甘やかしてきたので家のことは何もできない。かといって、家にあの子を連れて帰るわけにもいかない。故郷の村の近くの施設に入れるのが一番とも思う。だが、本人は今の仕事を頑張っているし、この町で育ってきたから、田舎に行く想像はできないと思う。本人もそんなことを言っている。でも、ひとり暮らしはあの子には無理だと思うし、そうなったら自分たちは安心して死ねない。福祉のことは避けてきたので全くわからないけれど、このあたりの施設で安心して暮らせて、今までに近いような暮らしができるころはないんですかね。」とのこと。

源一郎さんの姉は、「自分は家庭があって、子どもが3人いてまだ手もお金もかかる。他県に住んでいるが家もローンがまだまだある。できることは協力してやりたいが、むずかしいことも多いと思う。」という。

本人や家族の頭の中は少し整理され、ゴール設定もできてきた。

そのため、意向や情報を整理し、どのような提案をするか考える時期と担当相談員は判断した。

そこで、所内の検討会議に提出し、アセスメントと今後の方向性の検討を自分だけではなく、相談員全員で行おうと考えた。

事例の概要

事例タイトル	仕事も趣味も充実した暮らしを続けたい40代後半の男性の支援
年齢・性別・家族構成・現在の地域の居住歴	長州源一郎さん 年齢（47）歳・性別（ <input checked="" type="radio"/> 男）・女） 家族構成（父77歳/母74歳：同居 / 姉は結婚し、他県在住：別居） 現在の地域の居住歴 47年
手帳の種類と等級	療育手帳B（中度）
障害支援区分	未調査
生活歴及び病歴	<p>【生活歴】 〇〇市で出生。幼稚園から小学校では当初通常学級に在籍するが、4年次に勉強についてゆけなくなり、特殊学級に移る。中学校は、特殊学級に在籍し、楽しい学校生活を送った。いじめも多少は受けたが、ひどくはなかった。 中学卒業後すぐ食品機械の部品製作メーカーに就職。工場での金型プレスやバリ取り、製品の箱詰めの仕事に従事していた。30年ほど勤務していたが、工場が海外移転することになり、人員整理で解雇となる。その後、失業給付を受けながらハローワークに通い、再就職を目指していたがうまくいかないことが続いた。 失業保険の終期も見えてきた頃、たまたま街で出会った中学時代の同級生が就業・生活支援センターの支援を受けていることを知り、自分も相談できないかと相談したことから福祉の支援とつながる。連戦連敗の就職活動に落ち込んでいたり、新しい職種への挑戦に恐怖感があったことから、就労移行支援を使うこととなった。また、この時期に成人判定を行わなかった療育手帳の再取得や障害年金の申請などを行う中で、相談支援事業所の支援も開始される。 自信を取り戻した後は、現在の物流倉庫でのピッキングの仕事に就いて現在に至っている。就労も安定していることから、本人の希望もあり一旦終結していた。</p> <p>【病歴】 乳幼児期に数度てんかん発作があった。大人になってからはなし。</p>
相談に至る経緯	前頁参照
望んでいる暮らし、訴え、困っていること	<p>（本人） 「仕事を続けたいです。」「プラレールや電車が好きです。」 「(将来と言われても)よくわかりません。50歳までに独立したいです。」 「(今の生活は)このままでいいです。」</p> <p>（父母） 「私たちがいなくても、暮らせるようになってほしい。施設に入れたい。」 「(本人が大柄なため)最近執拗にお金を要求されることが頻回で怖い。」</p>
本人や家族の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・本人はずっとお金の管理を父母にまかせ、必要な時必要な額をもらうやりかたをとってきた。ここ1年ほどプラレールなどにはまって、使う額が増えており、そのやりとりがうまくできていない。 ・父母の高齢化により、本人の今後の生活を考える転機を迎えている。
本人の能力や環境的問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ずっと親子での暮らしを続けてきたため、今後の親亡き後の生活のイメージがつかっていない。その必要性についても腑に落ちていない。 ・枠組みなくお金を使ってきたため、金銭管理能力ではなく、そもそもの金銭感覚に乏しい。
本人の趣味趣向、楽しみ、長所	家庭内でも社会でも、慣れればできることが多い。就労等の大変と思われることも継続できる力がある。自分の思いが通らないと不機嫌になることもあるが、基本的にはおだやかで優しい性格（特に第三者に対しては）。
その他気が付いたこと	慣れた人や場所は全く問題ないが、未知のことについてはしり込みしがち。 好きなことや趣味は10代や20代から一貫している。同じことをルーティーンで続けることで飽きたりしない。 お金の使う額が増えたのは、新しい職場での趣味仲間の影響の様子。

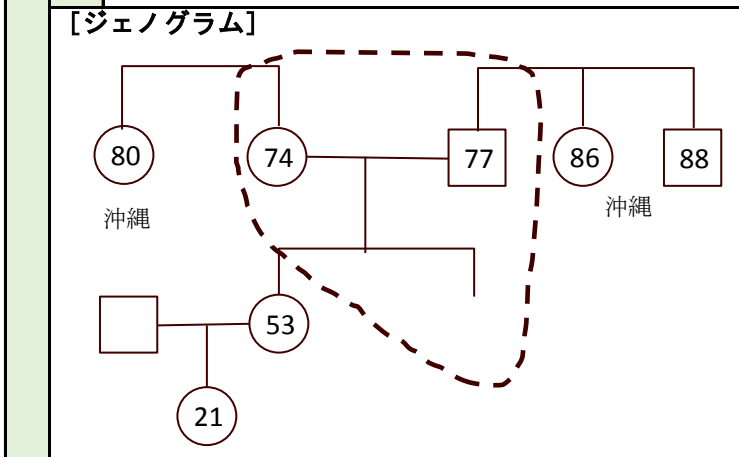
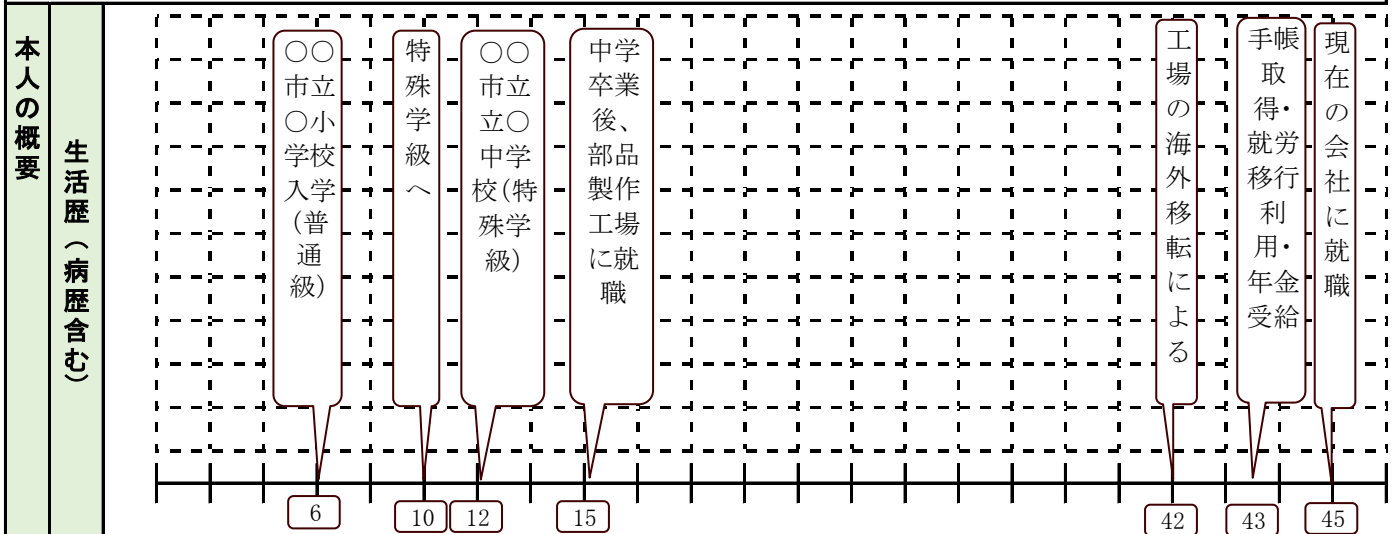
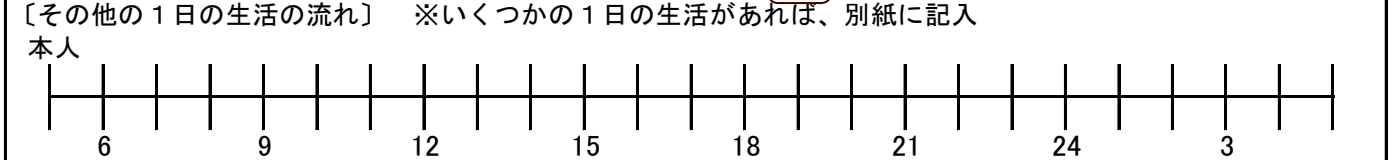
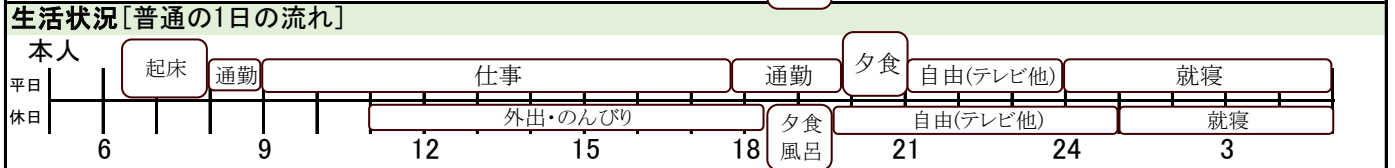
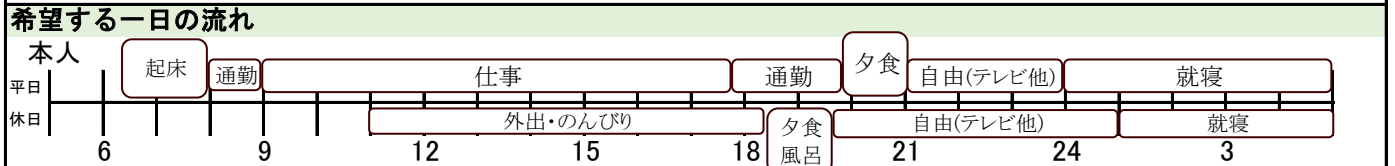
一次アセスメント票

受付No.	作成者氏名	作成日
0001	藤川 雄一	2017年11月18日

ふりがな 氏名	ちょうしゅうげんいちろう 長州 源一郎	性別 男性	住所 (〒000-0000) 東京都〇〇市△▽ヶ丘1-2-3 都営住宅501
生年月日	1970年11月11日	47 歳	連絡先 090-0000-0000

本人の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと
 「仕事を続けたいです。」 「プラレールや電車が好きです。」
 「(将来と言われても)よくわかりません。」 「(今の生活は)このままでいいです。」

家族の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと
 「私たちがいなくても、姉に迷惑をかけず暮らせるようになってほしい。」
 「(本人が大柄なため)最近、執拗に何かを要求されると怖い。」



利用者の状況

項目	状況・意思			支援者の気づき	
	現状	本人の希望	本人の選好	記入者	記入者以外 (専門的アセスメントを含む)

1 生活基盤・日常生活に関する領域

住環境	高齢世帯向け都営住宅(本人単身では居住できない)	「10年くらい前に近くの公団から引っ越しました。」 「〇〇市は良いですね。」	慣れているところでは落ち着いて自分でできることが多い。	東京郊外で新宿まで電車で40分のニュータウン。父母と同世代の住人が多い。昔からの商店街やスーパーがある。	
経済環境	月給手取 100,000円 障害厚生年金受給貯金もある様子 父母とも共済年金			経済的には余裕があるほうだが、使いすぎてしまう場合がある様子。	

2 社会参加に関する領域(教育、就労を含む)

趣味・旅行・レクリエーション	休みの日はプラレールの電車を走らせに行く。 本物の電車も好きで、よく電車に乗って出かける。 前の職場の人達と年に数回飲み会や旅行に出かける。	「プラレールを走らせるおもちゃ屋があるんですよ。」 「電車に乗りに行く旅が好きです。」 「やっぱりJRですね。」 「家ではテレビと雑誌です。」	テレビはBSの音楽番組や旅行番組をよく見ている様子。		「昔から電車は好きですね。好きなことはしつこいくらい調べて話しかけてくるんですよ。」 「収集癖があると思います。物は捨てません。」 (姉)
当事者団体の活動	なし				
自治会への参加	なし				
その他各種社会的活動					
就労	現在は、倉庫のピッキングの仕事をしている。	「仕事はずっと続けたいです。」			自分の役割をきちんとできている。新しいことを覚えるのはとてもゆっくり。(会社) 以前の転職の際に職業評価に関わった。当時は自己肯定感が下がった状態であったが、それでも集中力や課題を完遂しようとする力があつた。定型的な作業については企業で十分就労できる力がある。(職業リハOT)

3 コミュニケーションや意思決定、社会生活技能に関する領域

意思表示	うまく言えないこともあるが、はっきり自分の意思を伝えようとする。 わからないことはわからないと言う。				
意思決定					
他者からの意思伝達の理解	言葉の場合、わかりやすい言葉を選ぶ必要がある。 独特の言葉のいいまわしをよく使う。				

コミュニケーションツールの使用(電話、FAX、パソコン、タブレット、インターネット)	スマートフォンをもっている。通話やメール、電車関連などの情報検索に利用している。電話は苦手。出なかつたり、用件だけですぐ切る。				
対人関係	慣れている人とはうまくやりとりできる。言葉でのコミュニケーションは得意ではない。	「(言われていることが)わからないことがよくあります」「友だちは欲しいけど、たまに疲れまます。」	やさしく接してくれる年上を好む。厳しい人や怖い人は苦手。		
屋外移動やその手段(長距離、遠距離)	何度か行ったことのあるところには自力でいける。	「方向音痴なんですよね。」	はっきりとは言わないが、仕事帰りの寄り道が楽しみな様子。		
金銭管理	必要になったときに母から必要額をもらう。日々のお金はSuica(定期とオートチャージ)。	「お札を出しておつりをもらいます。」		基本はオートチャージの交通系ICカードを多用。必要な時に必要な額だけもらうため、枠組みを理解できていない。	金銭管理は難しい(以前の就労移行支援事業所)2桁の演算や繰上りなどのある計算は難しい。

4 日常生活に関する領域

身辺のこと	ADLは基本的に自立している。				
調理	炊飯や簡単なフライパン料理をすることがある。自炊をすれば支援が必要だが、ある程度は自分でできる。	「作ることもあります。でも大変です。」	親がいない時調理することもある。基本的には外食か惣菜。		
食事	たくさん食べる。ごはんはお替り3杯。	「ひとりだと好きなもの食べちゃいますね」	こってりした食べものジュース	出されたものは何でも食べるが、特にこってりした味が濃いものが好き。	
入浴		「お風呂が好きです。毎日入ります。」			お湯を使いすぎることを母は心配に思っている。
清掃・整理整頓	自分の部屋はきちんと整理されており、他人にはあまり触れられたくない。	「きれいですか？そうかな？」「自分の部屋以外の掃除はしません。」			
洗濯	自分でしたことはない。				
書類整理・事務手続き	難しい漢字は苦手。かみくだいて説明すると理解できる。	「難しい書類はよくわかりません。手伝ってくれる人がほしいです。」	わからない書類などは父母に渡す。		
買い物	自分の必要なものは自分で買うことができる。	「電車にはお金使っちゃいますね」「あとは食べ物です。」「雑誌は決まったものを買います。」			

5 健康に関する領域

体力	元気で体格がいい。身長180cm 体重100kg				
----	--------------------------	--	--	--	--

健康状態	40過ぎから健康診断は毎年再検査。血圧が150を超える。	「大丈夫です。」			生活習慣病の傾向はみられるものの、治療や生活上の制限が必要な状況ではない。ただし、ひとり暮らしをするのであれば、偏った食生活にならないよう配慮してもらいたい。一般的な成人男性であれば誰も追うリスク程度である。(健康診断時の内科医師所見)
医療機関利用状況	定期受診なし	「大丈夫です。」	病院があまり好きでない様子。		家族は心配しているが、うるさく言うと本人が怒り出すので黙っている。(就業・生活支援センター)
医療費・健康保険	社保加入				
障害	療育手帳B 自閉傾向あり				以前の転職の際、職業評価の一環として心理検査を行った。知能検査はWAISではなくWISCにて検査を実施。全IQは…(職リハCP)

6 家族支援に関する領域

父母	まだ元気だが、持病があり、気力体力とも衰えがある。本人の願うことはだいたい叶えてきた。父母とも共働きの元公務員。定年退職後はシルバー人材センターで働いたり、地域活動に参加していたが最近はのんびり暮らしている。	「ほんとはお父さんお母さんとずっと暮らしたい。」 「でも沖縄は…。仕事辞めたくないです。」	親を大切だと思うような素振りはいतरるところにみられる。	現在のところ介護は必要ない。本人を思う気持ちが強く、先行きの不安がある。	
姉	隣県在住。夫と娘の3人暮らし。夫婦とも公務員。月に一度家族で家へ来る。	「お姉さんとはたまに会います。」 「お姉さんは怒るところです。」		兄弟仲はごく普通。会えば話すが、共通の話題があまりないので長くは話さない。	
姪	大学3年生。鉄道好きで、本人と話が合う。子どもの頃から本人へおねだりするのが上手。		姪と会うのを楽しみにしている。		

対応者所見のまとめ

本研修では省略(事例の概要を参照)

ワーク 1 ストレngthsに着目したアセスメント票(参考例)

最初に大づかみに捉えた本人像 (端的に)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人としての基礎力のある人。 ・ 家のことも慣れればできるようになる可能性のある人。 ・ 趣味をもっており、追求して楽しめる人。 ・ 自分の望みを隠さず、達成しようとする意思のある人。 ・ よくいる少年のままの部分の多い中年のおじさん。

ストレngthsと捉えたことをできるだけ数多く挙げます。



性格・人柄／個人的特性	才能・素質
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前の職場の人ともつきあいが継続している。 ・ 独立心がある。 ・ 好きなことはとことん調べる。 ・ 決められたことを決められたとおりにしたい性格。 ・ おだやかで優しい ・ お金の使い方を知っている。趣味が楽しめる。 ・ わからないことを人に伝え、支えてもらうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事を安定して続ける力がある。 ・ 収入が多い。 ・ 飽きずに同じことを続けることができる。 ・ 決められた作業は慣れればできる。 ・ 簡単な食事を作ることができる。 ・ 自分のテリトリー (部屋など) を整理整頓できる。
環境のストレngths	興味・関心／向上心
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場の仲間 (特に趣味仲間) ・ 長く住み、慣れ親しんだ町に住んでいる。 ・ 昔からの友だちがいる。 ・ 本人を心配してくれる家族 ・ 話の合う姪 ・ プラレールに強いおもちゃ屋 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の仕事を続けたい意欲がある。 ・ プラレールや電車 ・ 旅行 (鉄道旅行) ・ 食べること

※ 4つのマスのどこに入れる (分類する) かは、さほど重要な問題ではない。

ワーク 2 ニーズ整理票 (参考例)

インタビュー	アセスメント (作成者のとらえたかた、解釈・推測)	理解・解釈・仮説② (専門的アセスメントや他者の解釈・推測)	支援課題 (支援が必要と作成者が思うこと)	プランニング (作成者がやろうと思うこと)
<p>本人の表明している希望・解決したい課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在と同じようなくらしを続けたい。 ・自信がないが、50歳までに独立したい。 ・仕事を続けたい。 ・ブラレールや電車に乗るなどして楽しみたい。 <p>(作成者の)おさええておきたい情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前の支援は本人の「卒業したい」という希望から一旦終結している。 ・(40代の男性として日常生活を営む力はあるが、)自分で家事をするのは大変と思っている。 ・書類や事務手続きは手助けが必要と感じている。 ・新しい環境に慣れるのに時間がかかる。 ・Suica決済できるものはしており、オートチャージにしている。本人は残高を管理していない。 ・必要な時に必要なだけ親からもらう仕組みでやっている。 ・経済的困窮の状況にない(給料+年金、父母の年金)。 ・仕事を続けたい意思がある。 ・リストラに遭うまで30年近く同じ仕事を続けていた。 ・職場の仲間を作ることができ、前職の仲間との交流もある。 ・仕事帰りの寄り道はひみつ。 ・転居の経験はあるが、同一市内。 ・都営住宅は親が転居したら住み続けることができなない。 ・中学(特殊学級)の友だちや仕事関係の人など本人の交友関係はこの地域にある。 ・姉夫婦は県外だが月1度は来訪する。 	<p>本人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立心やひとり暮らしをしたくない気持ちはあるが、経験のなさやひとりりで完遂するのが困難なことがある ・不安や自信のなさにつながっているのではないか。 ・不安や自信のなさは強く、大きな環境変化がある場合、慣れるには時間をかけた丁寧な支援を要することもあるのではないかと。 ・自分の財産や家計を把握していないのは、経験がないためではないか(支援があれば自ら金銭管理できるとはならない)。 ・特にオートチャージのSuicaを使ったり、枠組みを決めず、親に管理してもらっていた。 ・新しい職場でできた仲間の影響で使うお金は増えたが、特に生活が破綻するようなリスクはないのではないかと。 ・中学卒業以来ほぼ一貫して定職についており、仕事が本人の重要なアイデンティティになっているのではないかと。 ・趣味や楽しみ、自信のあることについては自分で広げる力があり、過度の関与は望んでいないのではないかと。 	<p>理解・解釈・仮説②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科医師より健康診断の結果、生活習慣病の傾向はみられるものの、治療や生活上の制限が必要な状況ではない。 ・ただし、ひとり暮らしをするのであれば、偏った食生活にならないよう配慮してもらいたい、一般的な成人男性であれば誰しも追うリスク程度である。 ・職業リハビリテーションセンター作業療法士より以前の転職の際に職業評価に関わった。当時は自己肯定感が下がった状態であったが、それでも集中力や課題を完遂しようとする力があった。定型的な作業については企業で十分就労できる力がある。 ・職業リハビリテーションセンターの臨床心理士より以前の転職の際、職業評価の一環として心理検査を行った。 ・知能検査はWAISではなくWISCにて検査を実施。全IQは... 	<p>支援課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる限り本人の大事にすることが継続できる「独立」に向けたイメージづくり。 ・金銭や家計管理ができるようになるための支援(とそれでもなおかつ必要な支援の把握)。 ・家族の安心感と納得。 	<p>プランニング</p> <p>対応・方針 (作成者がやろうと思うこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度の本人の「独立」に向けたイメージづくりと本人に具体的に必要な支援の把握。 <ul style="list-style-type: none"> →ひとり暮らしをしてくれる先輩宅訪問 →不動産屋さんに行ってみる。 →親がしばらく帰省している間の様子把握。 →グループホームの見学や体験 ・本人が金銭や家計管理ができるにする支援とそれでもなおかつ必要な支援の把握。 <ul style="list-style-type: none"> →本人の財産や家計について、親も交えて話をする。 →日常の暮らしに必要な収支を一緒に確かめる。 →相談しながら、1ヶ月自分で支出を可視化してみる。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>上記の関わりの結果【例示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしがしたい決意が固まった(50歳までにはひとり暮らしをするのが目標)。 ・働кинаがら色々やるのは大変...と思っている。 ・本人が使っているのは月6万
<p>今回大づかみに捉えた本人像(100文字程度で要約する)</p>				
<p>「俺は47歳。リストラに遭ってつらい思いもした。やはり男の基本は仕事だからね。ちゃんと働き続けたい。職場の仲間でプライベートも楽しめるやつもできたしね。あと3年で50歳。いつかは独立していかなくちゃと思っただけ、家は居心地がよくてここまできちゃった。でも、そろそろ本当に考えないといけないから、わかんないしこわいんだよね。一緒に考えてくれますか？」</p> <p>(ちなみにお金のこととは納得がいかなかったよ。キレてないですよ。)</p>				

ワーク 1 多様な地域資源を提案してみよう。

本人のゴール	
<p>「現在と同じような暮らしを続けたい。50歳までにひとり暮らしをしたい。」</p>	
	
提案する資源の活用 (アイデア)	根拠 (着目したストレングス)
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしや物件に関してネットで調べる。 ・ひとり暮らしの先輩の経験談を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・当事者会のイベントに参加する。 ・ひとり暮らしをしている人のお宅訪問をする。 ・グループホームや入所施設を見学してみる。 ・住宅供給公社に今の家に住み続けられないか、話を聞きに行く。 ・「ひとり暮らしマニュアル」のような本を読む。 ・一ヶ月自分でお金のやりくりを試してみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に物件探しを試してみる。 	<p>性格・人柄／個人的特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことはとことん調べる。 ・わからないことを人に伝え、支えてもらうことができる。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>才能・素質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた作業は慣れればできる。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>環境のストレングス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解と経験のあるいい担当者のいる不動産屋さん <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>興味・関心／向上心</p>
	
本人のゴールを実現するためのショートステップ	
<p>「現在と同じような暮らし」「独立」の具体的なイメージを作る。</p>	

※根拠は持ちつつ、できるだけ数多く挙げる。

※可能な限り自由に発想し、地域のありとあらゆるものを資源と捉える。

サービス等利用計画案・障害児支援利用計画案

利用者氏名(児童氏名)	長州源一郎	障害支援区分	区分3	相談支援事業者名	A相談支援センター
障害福祉サービス受給者証番号				計画作成担当者	藤川雄一
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画案作成日	平成29年11月20日	モニタリング期間(開始年月)	1ヶ月毎(平成29年12月)	利用者同意署名欄	長州源一郎
--------	-------------	----------------	----------------	----------	-------

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	50歳までにひとり暮らしがしたい。 今のところ働き続けながら、ひとつづつ目標に向かいたい。 プラレールや電車の旅などの楽しみを続けたい。もっと楽しみたい。 源一郎ひとりになって、本人の住み慣れたところで、問題をなく、姉を心配させることなく暮らし続けてほしい。(両親)				
総合的な援助の方針	本人は安心して慣れた環境では、その力が存分に発揮できることも大きいことから、着実に目標に向かって進むことができるよう伴走する。				
長期目標	現在の職場での就労を続けながら、両親から独立して暮らすことができるようなイメージやステップを本人とともに具体的に探す。				
短期目標	住まいかたのイメージを見学や体験を通して具体的ににつくる。家族の納得や安心も得られるように配慮する。				

優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等種類・内容・量(頻度・時間)	課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	現在と同じような暮らしを続けたい。 50歳までにひとり暮らしをした。	「現在と同じような暮らし」「独立」の具体的なイメージを作る。 この間の状況を共有し、今後連携できるよう、職場との関係構築を再度行う。	2ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> 共同生活援助(体験利用) △▽不動産(あんしん賃貸住まいサポート店、〇〇さん) □□の会(先輩の体験談を聞く) A相談支援センター 	まずは相談員と一緒に積極的に動いてみる。わからないことやいいなと思ったことを周囲に伝える。	1ヶ月	
2	仕事を続けたい。		2ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ○△物流(担当 〇〇係長、〇〇氏) □□就業・生活支援センター(〇〇氏) 	今までどおり。	1ヶ月	
3	プラレールや電車の旅などを楽しみたい。	これまで通り、本人の立てた予定を実現できるように一緒に確認をする。	1ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> 友だち(〇〇くん、〇〇くん) 母(お金の管理について) A相談支援センター 		1ヶ月	Suicaの管理は、2週に1回家族と相談員が一緒に様子を確認する。
4							
5							
6							

モニタリングの整理票

① これまで(前回まで)と比べてどのような変化があったか(本人・環境)。

・体験談を聞いたり、見学や体験利用を行った。
→ 本人に具体的なひとり暮らしのイメージがわいてきた。
→ 支援を受ける必要もあるが、ひとり暮らしに向けた意欲と自信が生まれた。
→ 家族がその姿を見て、本人にはひとり暮らしができるかもしれないという気持ちになってきた。
・お金のやりくりを自分で試してみることにし、その用途を可視化した。
→ まとまったお金の管理や1万円を超えるお金の計算には継続的な支援必要と本人も周囲も実感した。
→ 周囲を喜ばせようと買い物をする姿が見られた(高価な菓子など)。
→ Suicaは入金ルールを決める、履歴印字をして可視化するなどで問題なく使えている。

② 本人のゴールは達成されているか。ゴールに向かって進んでいるか。

・まだ準備期間は必要であるが、ゴールに向けた具体的なショートステップの切り方がわかってきた(本人・家族・支援者)。

③ 本人の満足度はどうか。

・自信もついてきたが、新しいことを短期間に色々経験し、負担感も感じている様子である。

④ 本人の想いやゴール設定に変化はあるか。

・特に変化はなく、目標がより具体化されてきている様子である。

⑤ アセスメントを大きく整理しなおしたり、計画を修正する必要はあるか。

・グループホームの体験利用を試みたが、最初からひとり暮らしに向けて準備に入っても十分可能そうである。

⑥ サービス等利用計画のモニタリング頻度は適切か。

・大きく生活に変化をもたらそうとしている時期であり、当面は毎月モニタリングが必要である。

※上記の視点をもとに、より具体的に記入する。

記入例

モニタリング報告書(継続サービス利用支援・継続障害児支援利用援助)

利用者氏名(児童氏名)	長州源一郎	障害支援区分	区分3	相談支援事業者名	A相談支援センター
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額		計画作成担当者	藤川雄一
地域相談支援受給者証番号		通所受給者証番号			

計画作成日	平成29年11月27日	モニタリング実施日	平成30年1月26日	利用者同意署名欄	長州源一郎
-------	-------------	-----------	------------	----------	-------

総合的な援助の方針	
全体の状況	
<p>本人は安心して慣れた環境では、その力が存分に発揮できることも大きいことから、着実に目標に向かって進むことができるよう伴走する。</p>	

優先順位	支援目標	達成時期	サービス提供状況 (事業者からの聞き取り)	本人の感想・満足度	支援目標の達成度 (ニーズの充足度)	今後の課題・解決方法	計画変更の必要性			その他留意事項
							サービス種類の 変更	サービスの 量の変更	週間計画の 変更	
1	「現在と同じような暮らし」「独立」の具体的なイメージを作る。	2ヶ月	特に問題なく生活できている。周囲とのトラブルもない。掃除はもともとできているし、洗濯もすぐできているようになった。食事は外食すると決めている様子で、ホームとしてはどうかと思う。	「お金の管理とかむずかしいことを手伝ってもらえば、ひとり暮らしできそうな気がしてきました。」	具体的な今後の段取りは話める必要があるが、イメージ作りについては目標は達成された。	父母はやはりあと数ヶ月で故郷に転出する意向を決めてゆく必要がある。来月までひとりで暮らしをする方向でプランを提案する。	有	有	有	今回はプラン変更しないが、来月計画を変更する必要がある。
2	この間の状況を共有し、今後連携できるよう、職場との関係構築を再度行う。	2ヶ月	夜ふかしをして寝不足な時間もあつたが、特に大きな支障は出ていない。勤務先も非常に協力的であり、繁忙期でなければサービス担当者会議にも参加したい意向である。	特に変わりないです。	目標は達成されている。		有	有	有	
3	これまで通り、本人の立てた予定を実現できるように一緒に確認をする。	1ヶ月	基本的には支援者は不要である。話を聞いて、金銭面等の確認が必要な程度である。	これまで通りでした。今はこれ以上のことは考えられないです。	日々の生活場面について調整している段階なので、特に要望等は出づらいう状況。ただ外出等はしている様子である。		有	有	有	
4							有	有	有	
5							有	有	有	
6							有	有	有	